

# 子どもが抱える困難 まず理解を

## 家族の世話・困窮 本県の実態は

弘前

ひとり親家庭の経済的困窮や、家族の介護・世話を担う「ヤングケアラー」など、本県の子どもたちが抱える困難の実態をまとめた書籍「青森に生きる子どもの困難とウェルビーイング」(弘前大学出版会)が4月、刊行される。

### 弘大・吉田教授編著 来月刊行

県内の教育・福祉関係者や同大教育学部教員らによる2017年からの研究プロジェクトの成果をまとめた。前半では、子どもの貧困と学習機会の関係やヤングケアラーの実態などを取り上げる。子どもが抱える困難が外から見えにくく、支援につながりにくい現状を説明。ひとり親家庭で学用品や修学旅行費の負担が重く、進学や部活動を諦めるケースも報告。親の病気に対応しながら日々の家事をこなす子どもの姿など、具体例も示している。

### 20日に記念シンポジウム

「青森に生きる子どもの困難とウェルビーイング」の出版を記念したシンポジウムが3月20日午後2時から、弘前市文京町の弘前大学創立50周年記念会館で開催される。教育・福祉関係者らが、子どもたちが直面す

る課題と地域での支援の在り方について議論する。指定討論者として、スクールソーシャルワーク研究の第一人者である大阪公立大学の山野則子教授が参加する。参加無料。

問い合わせは弘前大学教育学部総務グループ(電話0172-393962)へ。



シンポジウムのチラシを手に「子どもが抱える困難について理解を深めてほしい」と語る吉田教授

取り組みを紹介。複数の専門家が一度に相談に応じるワンストップ相談会の実践など、現場の取り組みと課題を報告する。人口減少や過疎化が進む本県の地域事情も踏まえ、子どものウェルビーイング(心身や社会的に満たされた状態)をどう支えるかを考察している。

吉田教授は「子どもたちが抱える困難の実態を広く知ってもらい、支援の仕組みづくりを考えるきっかけになれば」と話している。1800円(税抜き)。4月中旬以降、県内の書店で扱われる。

※この記事は東奥日報社の提供です。

【 問合せ先 】 弘前大学出版会

hupress@hirosaki-u.ac.jp

この画像は、当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。